

各館だより10

徳島県立文書館

徳島県立文書館は、徳島県置県100年のモニュメント事業として建設された徳島県総合文化公園の一施設として、平成2年11月に建設されました。

建設に当たって、県民の間から「公文書保存のための施設」「旧県庁舎の保存」の要望があり、これが実現したものです。

本館の元になった旧県庁は、昭和5年に建設された初期の鉄筋コンクリート建設の代表的建造物でした。

建物は、鉄筋コンクリート造り地下4階建てで、建築面積は619㎡、延べ床面積2,246㎡、棚延長8,715mで、都道府県立文書館としては比較的小規模のものです。

職員は10名、古文書5万点、公文書5千冊、



行政資料1万点。

本館は、温度・湿度・紫外線カット・空調の中性化など、保存の点では完全を期しております。これは同エリアの中に、博物館・美術館がある利点を生かしているためでもあります。

本館の特長のひとつは、文化の森総合公園にやって来て、文書館へもついでに足を延ばす来館者の多いことです。このために、展示を年中無休で行っています。

文化の森は、徳島県民にとって「名所や遊園地とむすびついた文化施設」となっています。これは文化施設の新しい型のひとつとも言えるでしょう。
(大和武生)